

平成28年12月9日(金) 16日(金)
児童数 男子16名 女子15名 計31名
指導者 増田 和江

1 題材名 曲想を味わおう

2 題材について

(1) 学習指導要領との関係

本題材は、A 表現「(1) 歌唱 イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。ウ 呼吸及び発声の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌声で歌うこと。エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。(2) 器楽 ア 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。エ 各声部の楽器の音や全体の響き、音を合わせて演奏すること。」B 鑑賞「ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」に關係している。

本題材は、曲想にふさわしい表現を工夫し、旋律の特徴や重なり方を生かして歌ったり、パートの役割にふさわしい楽器や演奏の仕方でも演奏したりすることや、曲想とその変化を感じ取りながら、旋律の特徴、反復や変化、強弱や速度などによる楽曲の構造を理解して聴くことをねらいとしている。

(2) 題材に関わる児童の実態 (省略)

(3) 本題材における指導

本題材の指導に当たっては、歌唱と鑑賞の活動に知識構成型ジグソー法を取り入れ、児童が主体的に学べるような工夫をする。「広い空の下で」では、歌詞、主な旋律の動き、旋律の重なり方の3つのエキスパート活動を行い、歌詞の内容を読み取ったり、旋律の動きや重なり方についての特徴を感じ取ったりして、表現の工夫を考えられるようにする。その考えを合唱チームの話し合いで提案し、自分たちの表現に生かせるようにする。

「ハンガリー舞曲 第5番」の鑑賞では、主な旋律ごとにエキスパート活動を行う。各部分の旋律の特徴や強弱、速度についてくり返し聴き、感じたことやわかったことを言葉や図形楽譜で発表しやすいようにまとめる。各部分の発表をさせた後、発表した資料を見ながら曲想が移り変わる様子を味わいながら全体を通して聴けるようにする。

「風を切って」の合奏では、歌唱と鑑賞で主体的に学んだことをもとに、各チームで表現の工夫を考え、曲想を生かした演奏ができるようにする。このように本題材では、少人数の学習グループで、児童が音を出しながら試したり話し合ったりする活動や、何度も繰り返して聴きながら話し合う活動を取り入れ、主体的に学習することで題材のねらいを達成できるように指導していく。

3 題材の目標

- (1) 曲想を味わいながら歌ったり合奏をしたり聴いたりする学習に、主体的に取り組もうとする。
- (2) 曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもつ。
- (3) 曲想を生かした表現で歌ったり楽器を演奏したりする。
- (4) 曲想とその変化を感じ取りながら、旋律の特徴、反復や変化、強弱や速度などによる楽曲の構造を理解して聴く。

4 教材について

- ・「広い空の下で」(歌唱) 高木あきこ 作詞 黒澤吉徳 作曲
卒業を前に、友だちとのきずなを思い出させるような歌詞となっている。斉唱から追いかけるような重なりになり、そして和声的な重なりへと変化し、気持ちの高まりを表現できるような曲である。
- ・「ハンガリー舞曲 第5番」(鑑賞) ブラームス 作曲 シュメリング 編曲
自在に変化する強弱や速度が特徴的で、生き生きとした曲想をもっている。子供たちにとってなじみがあり、短い曲でもあるため、聴く観点を変えてくり返し聴くことができ、曲想の変化への興味・関心を高めることができる。
- ・「風を切って」(器楽) 土肥 武 作詞 橋本洋路 作曲

冒険家の植村直己をイメージした曲。各パートの役割が明確で、それらの特徴に合う楽器を選択することで、各パートの役割を生かした合奏をすることができる。イとウの部分の曲想の違いを感じ取って工夫できる合奏曲である。

5 本題材で主に取り扱う〔共通事項〕と学習活動の関わり

〔共通事項〕 ア	(ア)	旋律	音の重なり	速さ	強弱
	(イ)	反復		変化	
具体的な学習活動		旋律の特徴や音の重なりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想を生かした歌い方を工夫する。		旋律の反復や変化、強弱や速度の変化を聴き取り、それらが生み出す曲想の移り変わりを感じ取る。	

6 題材の評価規準・評価計画（8時間扱い）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心を持ち、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ②旋律の特徴や、反復、変化などに興味・関心を持ち、曲想の変化を感じ取って聴く活動に主体的に取り組もうとしている。 ③パートの役割に興味・関心を持ち、曲想を生かした表現を工夫しながら、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律の特徴や音の重なりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を生かした歌い方を工夫し、どのように歌うかについて、自分の思いや意図をもっている。 ②互いのパートの旋律や音の重なりを聴き取り、豊かに響き合うよさを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。	①旋律の動きや重なり方に気を付け、響きのある声で歌っている。 ②旋律の特徴や重なり合う響きなどに気を付けて演奏している。 ③速度や旋律の特徴、強弱の変化、重なり合う響きなどに気を付けて、曲想にふさわしい表現で演奏している。	①旋律の反復や変化、強弱や速度の変化を聴き取り、それらが生み出す曲想の移り変わりを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。
時				
1			②	
2			①	
3	①	①		
4	②			①
5				①
6	③			
7		②		
8			③	

7 指導と評価の計画（8時間扱い）

時	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）
	〈第1次のねらい〉「広い空の下で」の二部合唱をする。「風を切って」の合奏をする。 正しい音で歌ったり、担当のパートの演奏を練習したりする。	
1	○「風を切って」の楽曲全体の感じをつかみ、主な旋律を演奏する。 ・範奏を聴き、楽曲全体の感じをつかむ。 ・②の旋律を歌詞で歌う。 ・①と②のパートをリコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・植村直己について調べる。 (宿題)	○楽譜を見ながら聴き、リピート記号を確認できるようにする。 ○階名唱をしたり、スタッカートやソシの運指に気を付けたりして練習できるようにする。 ○題材の始めに演奏させることで、合奏の活動に入ったときまでに十分な練習ができるようにする。 ○①と②のパートが演奏できる児童には、他のパートの練習をさせる。 ○事前に調べることで、開始の内容や楽曲の理解がし

2	○「広い空の下で」の楽曲全体の感じをつかんで歌う。 ・範唱を聴いて楽曲全体の感じをつかむ。 ・主な旋律を歌う。 ・副次的な旋律を歌う。	やすいようにする。 ☆旋律の特徴や重なり合う響きなどに気を付けて演奏している。 ウ②（演奏の聴取） ○旋律を単音で聴かせながら、正しい音で拍の流れにのって歌えるようにする。 ☆旋律の動きや重なり方に気を付け、響きのある声で歌っている。 ウ①（演奏の聴取）
〈第2次のねらい〉 歌詞の内容、旋律の動きや重なり方から、表現の工夫を考えて歌う。（「広い空の下で」）		
3	○歌詞の内容を読み取ったり、旋律の動きや重なり方についての特徴を感じ取ったりして、表現の工夫を考える。 〔エキスパート活動〕 A：歌詞にこめられた思いを読み取り、表現の工夫を考える。 B：主な旋律の音の動きから表現の工夫を考える。 C：旋律の音の重なり方から表現の工夫を考える。 ○曲想を生かした表現の工夫をして、二部合唱をする。 〔ジグソー活動〕 表現の工夫について話し合う。 歌い方を工夫して合唱の練習をする。 ○互いの合唱を聴き合い、表現のしかたのよかったところを伝え合う。 〔クロストーク〕 ・グループごとに発表して聴き合い意見交換をする。 ・自分たちの歌い方の工夫についてふり返る。	○クラスを2チームに分ける。 ○各エキスパートに具体的な活動方法やその順序をワークシートに示すことで、話し合いが円滑に進むようにする。 ○3～4人の少人数グループで話し合わせることで主体的に活動できるようにする。 ☆歌詞の内容や旋律の動きや重なりを生かした表現に関心をもち、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ア①（ワークシートへの記入・話し合いの様子） ○考えた表現の工夫を付箋に記入させておき、ジグソー活動に生かせるようにする。 （A・B・Cで付箋の色を変える） ○それぞれのエキスパート活動で考えたり話し合ったりしたことを伝え合い、工夫したいことを拡大譜に記入させる。 ○工夫したい表現を、実際に歌って試しながら話し合いを進めるよう助言する。 ☆旋律の特徴や音の重なりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を生かした歌い方を工夫し、どのように歌うかについて、自分の思いや意図をもっている。 イ①（発言内容・ワークシート） ○歌詞と旋律の動きや重なり方をどのようにとらえ、歌い方の工夫をしているのかについて観点を置いて聴かせ、ワークシートに書いたり発表したりできるようにする。 ○合唱を録音し、自分たちの学習をふり返ることができるようにする。
〈第3次のねらい〉 曲想の移り変わりを味わいながら聴く。（「ハンガリー舞曲 第5番」）		
4	○旋律の反復や変化に気を付けて聴く。 ・楽曲の全体をつかみながら聴く。 ・楽曲の構成を理解する。 〔エキスパート活動〕 ・各部分の旋律の特徴や強弱、速度についてくり返し聴いて話し合い、わかったことを模造紙に書く。 A：アの部分 B：イの部分 C：ウの部分 D：エの部分	○曲想が変わったところで挙手をする、四つの部分の違いに気付けるようにする。 ○くり返し聴くことで、アイウアイの演奏の順序を聴き取れるようにする。 ○各部分の旋律が反復されたり変化したりする中で、強弱や速度などにどのような特徴があるのかを聴き取らせる。 ○聴き取った特徴からどのような曲想を感じ取ったのかを拡大したワークシートにまとめさせ、わかりやすく発表できるようにする。 ☆旋律の特徴や、反復、変化などに興味・関心をもち、曲想の変化を感じ取って聴く活動に主体的に取り組もうとしている。 ア②（発言内容・行動観察・ワークシート）

5	○旋律の特徴や強弱、速度の変化が生み出す曲想の変化を感じ取って聞く。 【ジグソー活動】 - 各エキスパートが聴き取ったことを発表をする。 【クロストーク】 - 曲想が移り変わる様子を味わいながら全体を通して聴く。 - 曲想の変化を味わいながら聴き、紹介文を書く。	○音楽を流しながら発表させ、言葉や図形の表現が音楽の表現と重なるようにする。 ○発表した模造紙を見ながら聴くことで、視覚で確認しながら曲想の変化を味わえるようにする。 ☆旋律の反復や変化、強弱や速度の変化を聴き取り、それらが生み出す曲想の移り変わりを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。 エ①（発言内容・ワークシート）
〈第4次のねらい〉 曲想を生かして合奏をする。（「風を切って」）		
6	○各パートの特徴や役割を考えて、楽器を選んで演奏する。 - 各パートの特徴をとらえ役割を考える。 2グループに分かれ、各パートの役割にあった楽器を選ぶ。 - 自分のパートを練習する。	○「ラバース コンチェルト」の学習を想起させ、パートの役割とそれに合った楽器選びができるようにする。 ○拡大譜を各グループに用意し、話し合ったことや決めたことを記入できるようにする。 ☆パートの役割に興味・関心をもち、曲想を生かした表現を工夫しながら、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ア③（発言内容・行動観察）
7	○曲想にふさわしい表現を工夫して合奏する。 ①～④のパートの音量のバランスを考えながら合奏する。 - 旋律の反復や変化を生かした楽器の組合せや強弱、速度などの表現の工夫を話合う。 - 工夫を生かして演奏することができるように練習する。	○イとウの部分の曲想の違いを、強弱などの工夫につなげられるよう助言をする。 ○拡大譜に話し合ったことを記入し、グループ全員が理解しながら、実際に音を出して演奏の練習ができるようにする。 ☆互いのパートの旋律や音の重なりを聴き取り、豊かに響き合うよさを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。 イ②（発言内容・行動観察）
8	○グループごとに発表し、互いの演奏を聴き合う。 演奏を聴いて気付いたことや感じたことを書き、学習をふり返る。	○拡大譜に記入したことを確認させ、練習できるようにする。 ☆速度や旋律の特徴、強弱の変化、重なり合う響きなどに気を付けて曲想にふさわしい表現で演奏している。 ウ③（演奏の聴取） ○互いの演奏のよさを認め合い、自分たちの演奏についてふり返られるようにする。

8 本時の学習指導 (3/8)

(1) 目標 歌詞の内容、旋律の動きや重なり方から、表現の工夫を考えて歌う。

(2) 本時で扱う〔共通事項〕ア：(ア) 旋律・音の重なり・強弱 (イ) 反復・変化

(3) 展開

学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準（評価方法）	時間
歌詞の内容、旋律の動きや重なり方から、表現の仕方を考えよう		
1 歌詞の内容を読み取ったり、旋律の動きや重なり方についての特徴を感じ取ったりして、表現の工夫を考える。 〔エキスパート活動〕 A：歌詞にこめられた思いを読み取り、表現の工夫を考える。 ①歌詞を音読する。 ②くり返されている表現に線を引く。 ③込められた思いを話し合う。 ④表現の工夫を考える。 B：主な旋律の音の動きから表現の工夫を考える。 ①音符を線でつなぎ、旋律の動きの特徴を視覚的にとらえる。 ②旋律の動きを感じ取りながら歌う。 ③『曲の山』を探す。 ④表現の工夫を考える。 C：旋律の音の重なり方から表現の工夫を考える。 ①主旋律の音符を赤線、副旋律の音符を青線でつなぐ。 ②フレーズ毎に重なり方の特徴を視覚的にとらえる。 ③歌ったり範唱を聴いたりしながら重なり方の変化を感じ取る。 ④表現の工夫を考える。	○クラスを2チームに分ける。 ○各エキスパートに具体的な活動方法やその順序をワークシートに示すことで、話し合いが円滑に進むようにする。 ○3～4人の少人数グループで話し合わせることで主体的に活動できるようにする。 ☆歌詞の内容や旋律の動きや重なりを生かした表現に関心を持ち、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ア①（ワークシートへの記入・話し合いの様子） ○各エキスパートのグループを巡回し、表現の工夫につながるような話し合いができるよう助言する。	15
2 曲想を生かした表現の工夫をして、二部合唱をする。 〔ジグソー活動〕 ①自分で考えた表現の工夫を、拡大した楽譜に貼る。 ②表現の工夫について話し合う。 ③歌い方を工夫して合唱の練習をする。 3 互いの合唱を聴き合い、表現のしかたのよかったところを伝え合う。 〔クロストーク〕 ・グループごとに発表して聴き合う。 ・工夫した表現について意見交換をする。 ・自分たちの歌い方の工夫についてふり返る。	○考えた表現の工夫を付箋に記入させておき、ジグソー活動に生かせるようにする。 （A・B・Cで付箋の色を変える） ○考えを付箋に書かせて貼ることで、自分の考えと友だちの考えの相違点や、多く貼られた部分が工夫すべき部分であることに気付けるようにする。 ○それぞれのエキスパート活動で考えたり話し合ったりしたことを伝え合い、歌詞と旋律の動きや重なりがどのように関連しているのかを考えさせ、工夫したいことを拡大譜に記入させる。 ○工夫したい表現を、実際に歌って試しながら話し合いを進めるよう助言する。 ☆旋律の特徴や音の重なりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を生かした歌い方を工夫し、どのように歌うかについて、自分の思いや意図をもっている。 イ①（発言内容・ワークシート） ○歌詞と旋律の動きや重なり方をどのようにとらえ、歌い方の工夫をしているのかについて観点を置いて聴かせ、ワークシートに書いたり発表したりできるようにする。 ○合唱を録音し、自分たちの学習をふり返ることができるようにする。	20
		10

歌詞の内容、旋律の動きや重なり方から、表現の仕方を考えよう

エキスパート活動	ジグソー活動	クロストーク
A：歌詞・・・ B：旋律の動き・・・ C：旋律の重なり・・・	表現の工夫を話し合い、 合唱の練習をしよう。	発表会 意見こうかん ふりかえり

学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価基準（評価方法）	時間
曲想の移り変わりを味わいながら聴きましょう		
1 旋律の反復や変化に気を付けて聴く。 ・楽曲の全体をつかみながら聴く。 ・楽曲の構成を理解する。	○曲想が変わったところで挙手をさせ、4つの部分の違いに気付けるようにする。 ○くり返し聴くことで、アイウアイの演奏の序を聴き取れるようにする。	5
【エキスパート活動】 ・各部分の旋律の特徴や強弱、速度についてくり返し聴いて話し合い、わかったことを模造紙に書く。 A：アの部分 B：イの部分 C：ウの部分 D：エの部分	○各部分の旋律が反復されたり変化したりする中で、強弱や速度などにどのような特徴があるのかを聴き取らせる。 ○速さや強さなど、聴く観点をしっかりもって聴けるよう助言する。 ○指揮をしながら聴かせることで、特徴を感じ取りやすくする。 ○聴き取った特徴からどのような曲想を感じ取ったのかを拡大したワークシートにまとめさせ、わかりやすく発表できるようにする。 ☆旋律の特徴や、反復、変化などに興味・関心を持ち、曲想の変化を感じ取って聴く活動に主体的に取り組もうとしている。 ア②（発言内容・行動観察・ワークシート）	15
2 旋律の特徴や強弱、速度の変化が生み出す曲想の変化を感じ取って聞く。 【ジグソー活動】 ・各エキスパートが聴き取ったことを発表する。 【クロストーク】 ・曲想が移り変わる様子を味わいながら全体を通して聴く。 ・曲想の変化を味わいながら聴き、紹介文を書く。	○言葉や図形の表現が音楽の表現と重なるように音楽を流しながら発表させる。 ○発表したワークシートを見ながら聴くことで、視覚でも確認しながら曲想の変化を味わえるようにする。 ☆旋律の反復や変化、強弱や速度の変化を聴き取り、それらが生み出す曲想の移り変わりを感受取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。 エ①（発言内容・ワークシート）	10

(4) 板書計画

曲想の移り変わりを味わいながら聴きましょう

エキスパート活動

各部分の旋律の特徴や
強弱、速度についてくり返
し聴いて話合う。

ジグソー活動

各エキスパートが聴き
取ったことを発表する。

クロストーク

曲想の変化を味わいな
がら聴き、紹介文を書く。

速さ・強さ・繰り返し・変化

6年 音楽 『曲想を味わおう』（ ）グループ（ ）

歌詞の内容、旋律の動きや重なりから、表現のしかたを考えて歌おう。

A：歌詞にこめられた思いを読み取り、表現の工夫を考えよう。（グループで1組）

1 ①～④の順で活動しよう。

①歌詞を音読する。

②くり返されている表現に線を引く。

③歌詞に込められた思いを話し合う。

④表現の工夫を考える。

楽譜を入れる。

この楽譜を差し替えることにより、
違う曲でもエキスパートとして
使用できる。

③歌詞に込められた思いを書こう。

④表現の工夫を考えて書こう。

→ふせんにも書こう。

2 合唱のグループで、歌い方の工夫を話し合おう。

①付せんに書いた考えを伝え合いながら、拡大した楽譜にはる。

②拡大した楽譜に、歌い方の工夫を記入する。

3 ふり返り（活動を通して、気付いたことやわかったこと、できるようになったことなど）

6年 音楽 『曲想を味わおう』（ ）グループ（ ）

歌詞の内容、旋律の動きや重なりから、表現のしかたを考えて歌おう。

B：主な旋律の音の動きから表現の工夫を考えよう。（グループで1組）

1 ①～④の順で活動しよう。

①音符を線でつなぎ、旋律の動きをとらえる。

②主旋律の動きを感じ取りながら歌う。

③『曲の山』を探す。

④表現の工夫を考える。

楽譜を入れる。

この楽譜を差し替えることにより、
違う曲でもエキスパートとして
使用できる。

③主旋律の動きは？ 曲の山は？

④表現の工夫を考えて書こう。

→ふせんにも書こう。

2 合唱のグループで、歌い方の工夫を話し合おう。

①付せんに書いた考えを伝え合いながら、拡大した楽譜にはる。

②拡大した楽譜に、歌い方の工夫を記入する。

3 ふり返り（活動を通して、気付いたことやわかったこと、できるようになったことなど）

6年 音楽 『曲想を味わおう』（ ）グループ（ ）

歌詞の内容、旋律の動きや重なりから、表現のしかたを考えて歌おう。

C：旋律の音の重なり方から表現の工夫を考える。（グループで2組）

1 ①～④の順で活動しよう。

- ①主旋律の音符を赤線、副旋律の音符を青線でつなぐ。
- ②フレーズ毎の重なり方の特徴をとらえる。
- ③歌ったり範唱を聴いたりしながら重なり方の変化を感じ取る。
- ④表現の工夫を考える。

楽譜を入れる。

この楽譜を差し替えることにより、
違う曲でもエキスパートとして
使用できる。

③旋律の重なり方は？

④表現の工夫を考えて書こう。

→ふせんにも書こう。

2 合唱のグループで、歌い方の工夫を話し合おう。

- ①付せんに書いた考えを伝え合いながら、拡大した楽譜にはる。
- ②拡大した楽譜に、歌い方の工夫を記入する。

3 ふり返り（活動を通して、気付いたことやわかったこと、できるようになったことなど）